

## 処理業からリサイクル業へ

株式会社タケエイ 代表取締役会長

### 三本 守

MITSUMOTO MAMORU

1968年個人企業として建設廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ始める。

1977年武栄建設興業(株)を設立、取締役就任。1983年代表取締役就任。1988年(株)タケエイに社名変更。2010年代表取締役会長就任。(公社)全国産業廃棄物連合会理事、(一社)千葉県産業廃棄物協会副会長、環境省・国土交通省の各種委員会委員など多数歴任。

2018年(公財)日本産業廃棄物処理振興センター理事就任(現任)。



循環型社会形成推進基本法が成立し、建設リサイクル法等も制定され、廃棄物処理に関する社会情勢が大きく変化した2000(平成12)年を日本政府は「循環型社会元年」と呼び表した。タケエイは翌2001(平成13)年を「21世紀リサイクル元年」と位置づけ、廃棄物の3Rへの取り組みを本格化させた。処理業者からリサイクル業者へと、軸足を移すことにしたのである。

防火性や遮音性、経済性等に優れた石膏ボードは、建築物の壁や内装の材料などとして大量に使用されるため、新築及び解体工事現場では廃材が発生する。かつては大部分が埋立処分されていた解体系廃石膏ボードのリサイクル事業を確立すべく、2002(平成14)年に設立したのが「株式会社ギプロ」である。

リサイクル事業を軌道に乗せるには、入口と出口を押さえることが重要だ。排出される廃棄物を一定量確保すること、確保した廃棄物を高品質の再資源化品として安定的に供給すること。これらは一社単独の規模では難しく、同業他社や異業種との協業があって初めて可能になる。ギプロは、入口たる排出事業者、私たち産業廃棄物収集・運搬業者、そして出口である石膏ボードメーカーの出資によって成り立っている。創業以来いくつか子会社を設立

したが、他社と本格的に連携するのはこのときが初めてであった。

2004(平成16)年には、廃棄物処理業者11社とともに「新エネルギー供給株式会社(略称<sup>ネス</sup>NES = New Energy Supply)」を設立した。建設系廃棄物中の木くずを燃料チップにし、バイオマス発電所(市原グリーン電力株式会社<sup>※</sup>)に供給する事業である。処理業者が単独で集荷し、チップ化して供給できる量には限界がある。発電には大量の燃料を要するため、一社で採算を合わせるのは至難の業であるし、求められる量を供給できない業者の立場は弱くなる。そこで燃料の安定供給と処理業者の地位向上を目指し、同業他社に協業を呼びかけた。NESを構成する処理業者数は今や18社、協力会社による「新エネルギー事業研究会」の加入社数も22社と、合わせて首都圏40社による燃料供給体制を築いている。

同業者間で競い合うことも、確かに必要である。しかし自社の利益だけを追求しては、持続可能な事業運営は望めない。視点を今より少しだけ高く持ち、業界発展のために自社は何をすべきか考え、実行することが大切だ。その成果はいつか<sup>かえ</sup>還つてくと、自身の経験から確信している。

※2020年4月30日付で株式会社タケエイの連結子会社化。